

東流西流

先週、英国の高校生K君のことを紹介しましたが、山口にもサッカー大好き高校生で「やまぐちロボサポートセンター」に通っているS君がいます。S君は11歳の時に脳出血で倒れ、一時は生死をさまよいましたが懸命のリハビリを続け、今はロボットを着けて歩く練習をしています。彼はもともとサッカーをしていてレノファの大ファンで



山本喜代人

サッカー少年

す。昨年はレノファのホームゲームでロボットをひざに着けて試合前のキックインをしたほどです。普段は陽気な少年ですが、彼の前向きな姿勢には頭が下がります。パラスポーツにピンバッグ投げという競技がありますが、彼は何と県大会で優勝しました。そして11月には下関海響マラソンに足こぎ車いす「COGGY」でチャレンジします。大分県別府市に障がい者の就労支援に取り組み「太陽の家」と

東流西流

先週大分市で開催されたロボットリハビリ研究大会にスタッフ全員で参加してきました。土日の2日間、全国の病院から発表があり、私の脳内メモリーはパンパン。発表を聞きながら感じたことは、「この方にはこのロボットのごうい使用方が合うな」ということを見定める能力が重要だということです。



山本喜代人

人とテクノロジー

「やまぐちロボサポートセンター」には5種類「トセンター」には5種類のロボットがあります。工学部の0.0%引き出しながら、人できないとできない部分、例えばお客さまの気持ちに寄り添っていくことが大切だと考えています。大分の研究大会も大変勉強になりましたが、山口にもとても心強く思っている活動があり、山口から世界に発信しています。山口大学の医学部と工学部の合同研究会です。例えば、首にこういいう力が加わったら脊髄脊樞の組織にどのような影響があるかなど。工学部から若い学生が力学的なシミュレーションを発表し、それに対してドクターが臨床の現場から意見を交わしていく。文系の私には意味不明なことばかりですが、山口でこういいう熱い議論が交わされていることに将来性を感じています。このたび、宇部高校出身の本庶教授がノーベル賞に決まりましたが、山口から世界に発信していることを楽しみにしています。(山口市、やまぐちロボサポートセンター代表)

東流西流

「脳フェス」というタイトルを鑑みながら、皆さん一体何だろうと感じられたと思います。「脳卒中フェスティバル」の略で、毎年秋に開かれる脳卒中の方やそのご家族が本気で楽しむ大人の文化祭です。今年は来月11日に東京で開かれますが、「やまぐちロボサポートセンター」も利用者の7割近くが脳卒中の方であり、趣旨に賛同して



山本喜代人

脳フェス

協賛させていただきました。協賛されているのは自ら若くして脳梗塞を経験し、後に理学療法士となった方です。私はその方の本を讀み講演を聴いて、その通りだと共感しました。私も腰の手術を3回経験した方同士で相談し合える身全体がまひしました。身体の感覚がなくなってしまうと感じました。リハビリもつらいものでした。「立ってください」と言われ、一体どこにどう力を入れたら立てるのか? 自分の身体が思うように動かないというのは歯がゆいものです。幸い私は職場復帰することができましたが、本人や家族にとっては毎日の生活や将来への不安など悩みがたくさんあると思います。センターへはご家族が送迎して来られる方も多いため、家族会の方同士で相談し合える場、そういった役割も果たしていきたいと考えています。(山口市、やまぐちロボサポートセンター代表)

東流西流

長いと思った連載もいよいよ最終回です。この機会にご利用者のお顔を思い浮かべながら「やまぐちロボサポートセンター」の存在意義を自問自答しました。その中で「諦めない」ことが一番大切と感じました。センターにはフクロウの絵が掛けてあります。フクロウは「不苦労」「福来朗」とも書く縁起の良い生き物です。この



山本喜代人

可能性を信じて

絵は下関の画家が描かれたもので、センター開所時にある方からいただきました。絵には「偶然の幸せはひとときのもの、不動の幸せは日々つづつ」。まさに「ひとつづつ」、毎日の積み重ねの先にはきつと「不動の幸せ」が待っていることでしょうか。諦めずに進んでいきたいと思っています。2カ月間お付き合いいただきありがとうございます。(山口市、やまぐちロボサポートセンター代表)